



たか子のあつたが通信

発行責任者：塩原孝子 連絡先：松本市寿北5-15-27 Email: takako092@outlook.jp ☎0263-27-1122 (共産党)

すべての難聴者に 補聴器購入助成実施



厚生委員会で主旨説明する藤沢さん

うれしい！長年の要望がいに実現！

年金者組合 藤沢 満雄

6月定例会市議会で「高齢者補聴器購入助成制度」の質問に対し、臥雲市長は「年齢制限なしで全ての難聴者を対象に助成するため、来年度からの予算化に向け調整している」と答弁しました。

私たちは、これまで諸団体と連携して「助成制度」を求めて取り組んできました。2023年6月、松本市議会議長宛に4回目の「加齢性難聴者の補聴器購入助成を求める陳情書」を提出しました。厚生委員会で審議の結果、やっと採択されました。お金がかかるので躊躇していた市長が、年齢制限なしとは驚きました。あと「助成金」がどのくらいになるのか注目です。共産党市議の皆さんと引き続き頑張りたいと思いますので、よろしく願います。

県内補聴器助成制度実施自治体

2025年7月1日現在

文字 赤は18歳以上 黒は高齢者対象自治体

2015年～	木曽町	30,000円
2020年～	南箕輪村	20,000円
2021年～	飯綱町・南木曽町・伊那市	30,000円
	南牧村	50,000円
2022年～	松川村	30,000円
	阿智村	50,000円
	中川村	100,000円
	富士見町・飯島町	20,000円
2023年～	下諏訪町・飯山市・大町市・上松町	30,000円
2024年～	諏訪市・辰野町・朝日村・木島平村・小海町・長和町	30,000円
	箕輪町	30,000円
	宮田村	60,000円
	青木村	40,000円
2025年～	岡谷市・飯田市・坂城町	30,000円
	原村	20,000円
	松川村・信濃町	決定したが補助金の額は未定

6月議会
質問

よりよい事業を期待



塩原：加齢性難聴は60代後半で3人にひとり、75歳以上になると7割以上が発症すると言われていて、認知症の危険因子とも言われている。認知症の危険因子とも言われ、全国的に購入補助が広がり453自治体で実施されている。補聴器使用と認知症との関係については耳鼻咽喉科の医師の意見を伺う。

健康福祉部長：聴力低下で社会参加に消極的となり、脳の機能低下から認知症にすすむケースもある。補聴器を適切に使用することで生活の質を向上させることができる。

塩原：高齢福祉課が実施した高齢者アンケート結果では「お金がかかる」「メンテナンスが大変」「使い方が難しい」など43%の方が使いづらさを抱えていると回答。補助があれば使ってみたいが34%。

助成の事業化にあたり、装着後も関係者と連携して支援する仕組みが必要と考えるが、市の見解は？

健康福祉部長：購入後の定期的なメンテナンスについては支援する。

塩原：18歳以上から助成している自治体が県内10か所ある。高齢者の就労を応援する意味でも評価できる。

長年の要望だったのでより良い事業になることを期待したい。



言語聴覚士による学習会

6月議会



補聴器

購入補助

(一面)の他、次の3点を質問をしました。

健康保険証の復活を

塩原：新規保険証発行が停止されてから半年。マイナ保険証の利用率は30%程度で9割の医療機関でトラブルが発生している。

国民健康保険証の有効期間が切れる8月から医療が引き続き安心して受けられるのか？

健康福祉部長：マイナ保険証はマイ

ナンバーの有効期間が切れても引き続き3カ月は利用可能だ。マイナ保険証が使いにくい人は「要配慮者申請」をして「資格確認書」を受け取れる。対象者は高齢者や障がい者などだが、子どもについても柔軟に対応をしていく。

塩原：75歳以上の方にはすべて職権で「資格確認書」を交付することになっているが、74歳以下の国保加入者にも交付して



ほしい。国も自治体の判断だと言っている。世田谷区や渋谷区のように職権で交付すべきではないか。

健康福祉部長：全員に交付は行わないが柔軟な運用で、安心して医療を受けられるようにする。

塩原：マイナカードの取得は任意であるのに、保険証と紐づけして保険証の発行を中止してしまったこと自体が納得できない。従来通りの「健康保険証」復活を強く求める。

ヤングケアラー支援

塩原：市独自の小中学生向けのアンケートで自分がヤングケアラーだと

答えた児童が65人いた。しかし行政が認定したのは3人だ。その理由は？

子ども部長：65名中面談希望の子どもは20名。実際に面談できたのは7名。そのうちの3名をヤングケアラーと判断した。

塩原：ヘルパーが訪問する「子ども安心訪問支援事業」を実際に利用している児童は何人いるか？

子ども部長：対象者は令和5年度は8世帯15名、令和6年度は16世帯26名いたが、実際に利用したのは両年度共に3世帯3名。

塩原：市は、ヤングケアラーコーディネーターを令和6年度から配置してい

るが、1名の会計年度任用職員だ。長野市や神戸市のように複数配置して支援体制を強化すべきだ。

子ども部長：子ども家庭センターのケースワーカーを1名正規職員化した。今後は必要に応じて検討していく。

塩原：11歳時にお母さんが若年性認知症を発症してヤングケアラーだった美斉津康弘さんは漫画で啓発活動をしている。



子どもを孤立させないために大人がヤングケアラーを見つけつつながり寄り添うことが鍵である。そのようなネットワークを作っていくことが行政の役割だと思う。

松本マラソン不正会計問題

塩原：令和5年度松本マラソンが赤字会計だったのに不正会計処理で黒字としたことは問題である。

担当課から市長に相談がなく、相談しにくい組織風土があるのではないかと職員との信頼関係をどう構築しているのか？

市長：松本マラソンの継続性については庁内で賛否が分かれていた。

担当職員と市長との関係については第三者の検証委員会の報告を待ちたい。

塩原：不正会計と知りながら、令和7年度マラソンの市負担金1億800万円を計上をしたことは大問題である。

市長：事実関係を調べることを優先した。2月の時点で開催が難しいという判断を持ちながら、議会に報告しなかったことについては大変申し訳なく思っている。

意見書採択

高額療養費制度の自己負担上限額の引き上げをしないことを求める意見書

秋には再度上程される可能性がある法案です。松本地区社会保障推進協議会から出された請願に、がん患者さんの声を紹介しながら賛成をしました。

松本空港に着陸した米軍機に関する意見書

3月25日に松本空港に緊急着陸した米軍機オスプレイについて国や県に情報提供を求めていましたが、未だに緊急着陸の原因や事実関係などの情報提供がありません。



国からアメリカ側側に働きかけることを求める意見書を共産党市議団が中心になり準備し、全会一致で採択することが出来ました。



暮らしの相談から



相談

市道建設で保育園立ち退きか

里山辺から惣社にかけての道路建設に伴い、山の子保育園の敷地が新設の橋から続く道路にかかってしまうために、保育園では園舎移転の準備が進んでいました。

当初、橋の工事は園舎が移転してから着工するという約束でした。

しかし「今年の10月から工事を開始したいと市から急に言われて困っている」と保育園関係者から相談がありました。

対応



10月までに新しい園舎を建設する事は無理で、子ども達に安心安全な保育環境を提供するためにも、約束は守ってほしいと要望。

保護者会や職員の皆さんと共に

市の建設課、公共用地課との話し合いを持ち、当初の園との約束を守り移転後の工事着工になりました。



相談

生活保護費減額

生活保護を利用しての方から、4月から何の説明もなく保護費が減ってしまった、この物価高で困っている。なぜ減額されたのか調べてほしいと相談がありました。



対応

市への問い合わせで、冬の冬季加算が3月までついていたが、4月から付かなくなったためという事がわかりました。しかし事前に丁寧な説明が必要で

「いのちのとりで裁判」で、最高裁は2013年からの保護費の減額は違法であると判決を下しました。そもそも保護費が低いのが問題です。

又、参議院選挙中に参政党から外国人が優遇されているという発言がありました。そんなことは全くなく、むしろ権利制限をされているのが現実です。

相談

福祉の後退？

ケアマネジャーさんから、浴用シャワーチェアなどの福祉用具の購入やレンタルが難しくなっていて介護保険利用許可が出ないことがあるという相談がありました。

対応

高齢福祉課に要望し、改善を求めました。福祉用具業者からも実態を聞きました。

ほっとひといき

平和の願いを子ども達と歌う「どうれっしゃがやってきた」合唱練習中



2頭の象を、全国から列車に乗って子ども達が観に行くと、実話に基いた合唱組曲です。

この合唱曲は1986年の初演から、国内ばかりでなく海外でも40年間歌い継がれている歌です。

戦争中に東山動物園の4頭の象うち2頭が軍の命令で殺されましたが、園長さんの熱意で生き残すことができた

孫たちも参加して一緒に演奏できるのがとても楽しみです。歌詞の中に「子ども達の笑顔は明るく輝き、戦争で傷ついた心を癒してくれる」とあるのですが、ガザで命を落とした子ども達や飢餓で苦しむ子ども達と重なり、無法で残虐な戦争は一刻も早く終わらせることを願ってやみません。

戦争は二度と起こしてはなりません。

是非、音楽会にお越し下さい。

☆うたごえ祭典inまつもと
9月15日(月祝) 12:30
於・松本市音楽文化ホール

今年度はお風呂券の値上げもありました。介護認定は一人暮らしの方は自立しているとみなされ介護申請を受け付けてもらえない、又入院中の介護申請も拒否された等の事例がありました。

個々の対応の中でサービスが受けられなくなっていて、じわじわとした高齢福祉の後退ではないかと感じます。

物価高対策申し入れ

6月9日、市長に物価高騰から暮らしを守るための申し入れを行いました。

年金生活者が必要な食品も買えない、ひとり親家庭では子どもにおなかいっぱい食べさせられないなど市民の暮らしの厳しい実態を伝えました。そのうえで

国の交付金を使い

- ① 介護・医療・福祉事業所の食材費の補助
- ② 農家への肥料代の補助
- ③ 上下水道基本料金の減免

を要望しました。国からの交付金はわずか9000万のため市独自で上乗せをしての対応を要望しました。



活動日誌

参議院選挙の結果を受けて

参議院選挙中はご支援ご協力を頂き大変ありがとうございました。

自民公明与党を少数にして暮らしと平和を守る「日本共産党を大きくして下さい」と後援会の皆さんとプラスター宣伝や選挙カー・SNSなどで訴えました。

結果、自公政権を小数に追い込みましたが、日本共産党は4議席を減らす悔しい結果となりました。消費税の減税とその財源提案はどこでも歓迎された公約でした。

今回の選挙戦を振り返りますと、暮らしの困難の原因が外国人を優遇しているかのように描き出した排外主義の極右政党が議席を増やす結果となりました。国民生活の困難さは失われた30年といわれる自民党政治の悪政が招いた結果です。そこに目を向けなかった争点そらしのマスコミの報道にも責任があると思います。

選挙後、差別、排外主義を許さない行動が全国で始まっていることが希望です。「明けない夜はない」と言われた方もいます。

お気づきの点を是非お寄せ下さい。
引き続きの応援をよろしくお願い致します。

女性団体連絡協議会との懇談

7月11日「松本市女性市議会議員と語る会」に参加しました。今年は「在宅介護」「公共交通」など4つのテーマでグループに分かれて意見交換をしました。

私は「女性が安心して働ける環境整備」の分科会に参加しました。保育園や児童センターの充実と共に、休暇をとりやすい職場環境にしていく事が大切だと確認しました。



7月19日女性後援会宣伝

参議院選挙最終盤で、女性後援会員のみなさんと中町や縄手通りを練り歩き通行人にビラを手渡し日本共産党への投票を呼びかけました。

いざという時

どこに相談

私たち共産党蟻ヶ崎後援会では「あなたの声をお寄せください」要求アンケート活動を取り組みました。この中で高齢になり暮らしの不安がいろいろあることが寄せられました。まずは交流していろいろ出し合いましたと集いを開催しました。

みなさんの話したいことランキングはやっぱり「低い年金でいざと言う時心配!」どこに相談したらいいか?

「元気で生き生きとした高齢者でいるには」「ひとり暮らしや高齢者のみの暮らしで準備しておきたいこと」などでした。

高齢者が政治の隅に追いやられることのないように声をあげ、つながっていくことができるといいと思いました。

【参加者の声】

終活と聞くと気は焦るのですが、どこから手を付けたらと悩んでいました。参加してまずはエンディングノートを書き直したいと思いました。

助言者の塩原議員と宗田議員の話は介護、福祉制度も含めわかりやすく頼もしく感じました。

(蟻ヶ崎地域後援会 児玉)

